

2026年度 東洋大学 IRニュースレター Vol.2 (通算第21号)

2025年度卒業時アンケート調査結果分析 — 過年度との比較 —



東洋大学
学長・IR室長 矢口悦子

2025年度卒業時アンケート調査では、大学生として過ごした時間を通じて、学生としての主体性に変化が見られる結果となりました。

教育に関する調査項目の「これまで受けた授業」では、ほとんどの項目において2024年度を僅かながら上回り、その中には「意見や考え方を述べる」授業や「グループワーク等の参加機会」が含まれておりました。一方で、「増やして欲しい」授業として、「コメントが付されて課題等の提出物が返却される」「授業内容に興味がわく工夫」「理解しやすい考え方」が挙げられており、授業理解を深めようとする学生の積極性が伺えました。

さらに、学修に関する項目では「予習・復習」「自主学習」において、経年比較では大きな変化が見られませんでしたので、学生はこれまでどおり学修に取り組んできたと判断することができます。一方で、身に着けた知識・能力のうち「チームワーク、リーダーシップ」「自己管理力」「問題解決力」が2023年度から大幅に増加することとなり、大学生活を通じて主体的な探究姿勢が育まれたと考えられます。

「大学」「学部・学科」に対する満足度も、それぞれで「教育内容」「教員」「国際交流」が上位5項目に挙げられる等、大学が社会全般に期待される要素については、巢立っていく学生たちからは一定の評価を得られたものと考えられます。

今後も学生の声に耳を傾けながら、今回の様な調査・分析を通じた継続的な改善と発展に取り組んでまいります。

2025年度卒業時アンケート調査概要

対象: 2025年度3月卒業決定者(学部生)

実施期間: 卒業決定者発表に合わせキャンパスごとに回答開始
(4月5日(日)まで)

- ・朝霞: 2026年3月10日(火) 開始
- ・白山・赤羽台: 2026年3月11日(水) 開始
- ・川越: 2026年3月14日(土) 開始

回答方法: Webアンケート(Googleフォーム)

分析担当: IR室 教授 劉文君

年度別回答者数/回答率

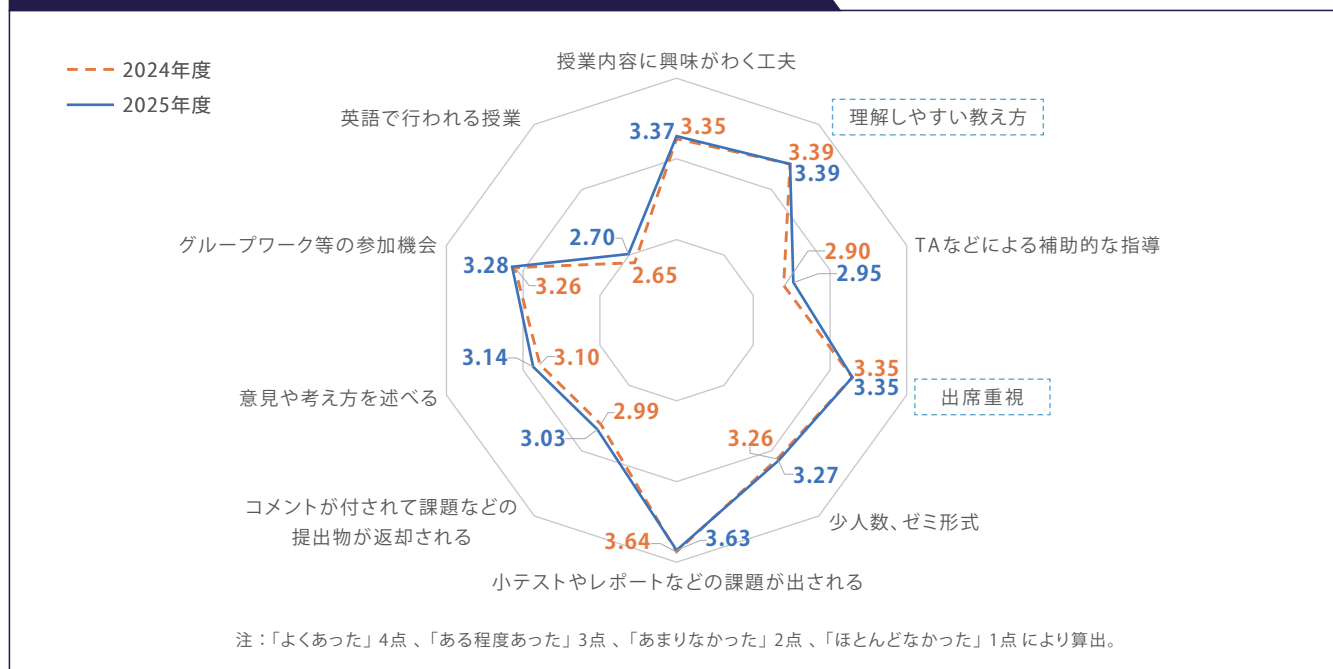
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
卒業者数(人)	6,847	6,590	6,562	6,499	6,591
回答者数(人)	1,415	2,154	2,306	3,229	3,330
回答率(%)	20.7	32.7	35.1	49.7	50.5

分析の目的: 主に以下の項目について、昨年度との比較および2021年度から2025年度までの5年間の推移を明らかにする。①教育に関する項目、②学修に関する項目、③身に付けた知識・能力、④「大学」「学部・学科」の満足度。さらに、これらの満足度に影響を与える要因を分析し、教育の質や「大学」「学部・学科」への満足度の向上に向けた示唆を得ること。

① 教育（「受けた授業」・「増やしてほしい授業」）

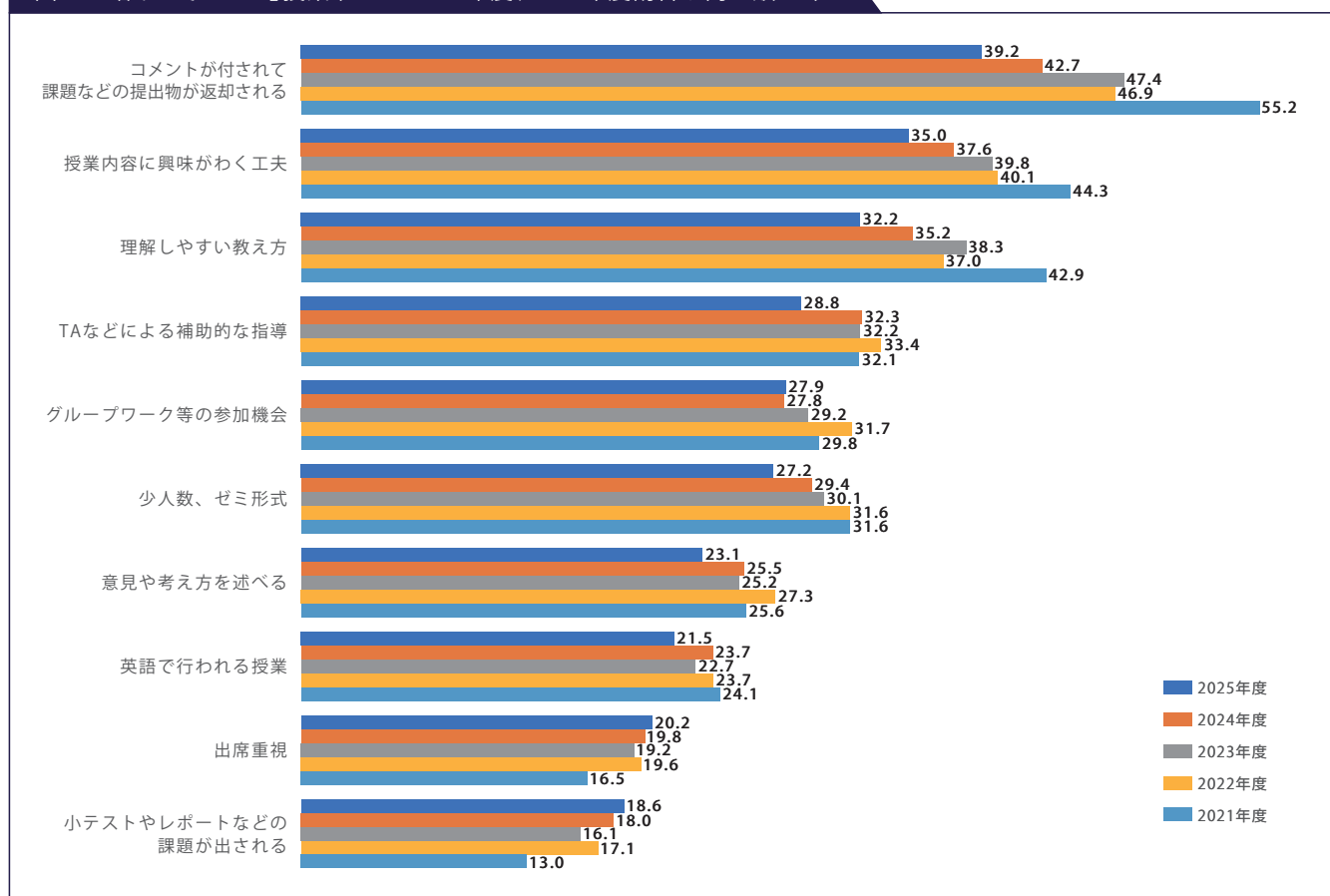
まず、設問「これまで受けた授業は、次のようなことがどれくらいありましたか。」の回答（図1）を見ると、平均値が高かった「理解しやすい教え方」と「出席重視」を除き、他の項目において平均値が昨年よりも高くなっている。

図1 「これまで受けた授業」各項目の平均値（2024-2025年度）



また、設問「これまで受けた授業は、次のようなことについて、その程度は十分だと思いますか。」に対し、各項目で「増やしてほしい」と回答した割合の5年間の変化を図2に示す。

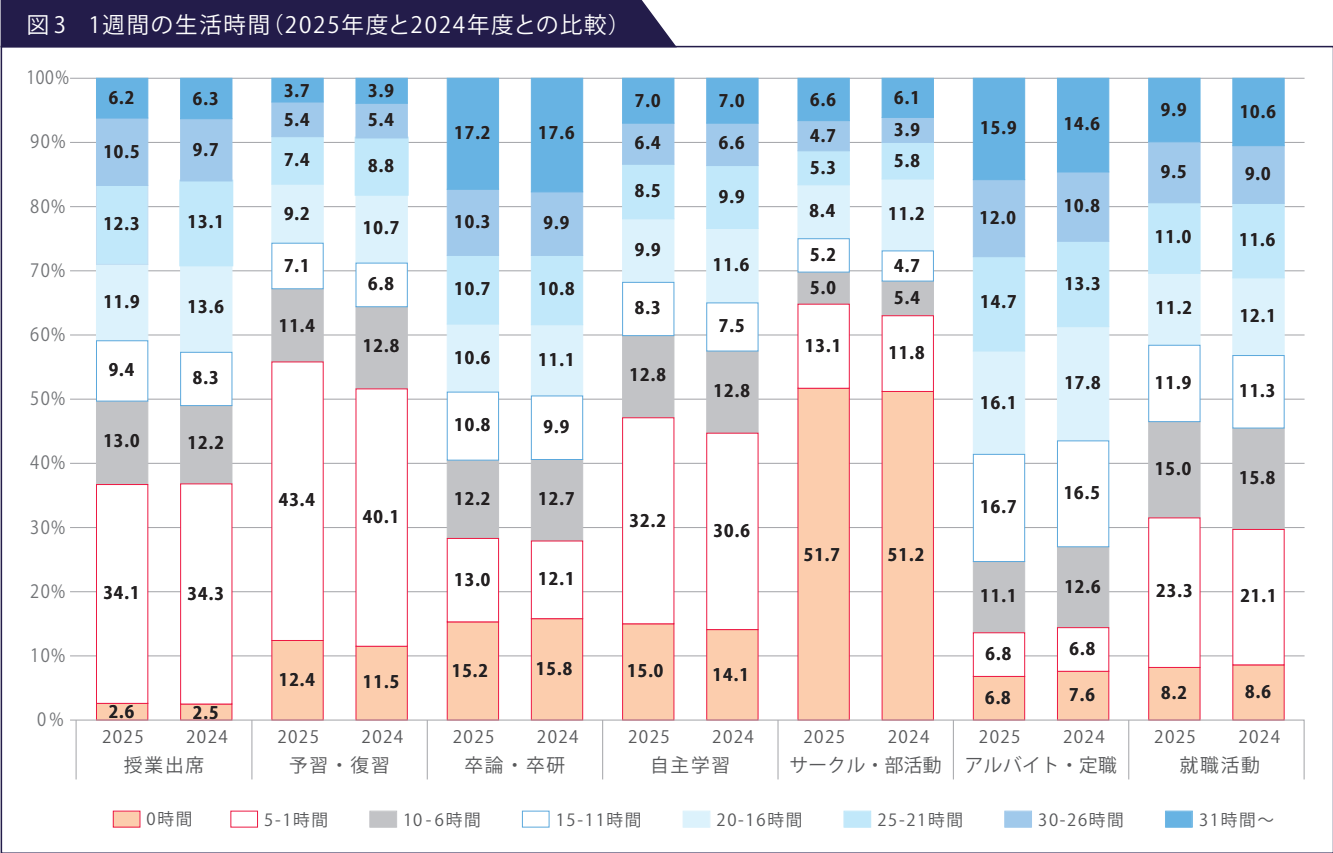
図2 「増やしてほしい」授業（2021-2025年度、2025年度割合が高い順・%）



経年変化を見ると、「増やしてほしい」の割合は、「コメントが付されて課題などの提出物が返却される」「授業内容に興味がわく工夫」「理解しやすい教え方」の3項目で、年々減少し、過去5年間で大幅に減少した。ただし、これらの項目は依然としてトップ3に入っている。一方、多くの項目で割合が減少傾向にある中、「出席重視」や「小テストやレポートなどの課題が出される」については、割合が増加している。

② 学修（「1週間の生活時間」）

図3に示すように、2025年度のデータを昨年度と比較すると、以下の傾向が見られる。「授業出席」については、「11時間以上」の割合が51.0%から50.3%へとわずかに減少している。「予習・復習」では、「5時間以下」の割合が51.6%から55.8%へと微増している。「卒論・卒研」では、「11時間以上」の割合が59.3%から59.5%へとほぼ変化がない。「自主学習」については、「5時間以下」の割合が44.7%から47.2%へと微増している。「サークル・部活動」では、「5時間以下」の割合が63.0%から64.8%へと増加している。「アルバイト・定職」では、「11時間以上」の割合が73.0%から75.4%へと微増している。



③ 身に付けた知識・能力

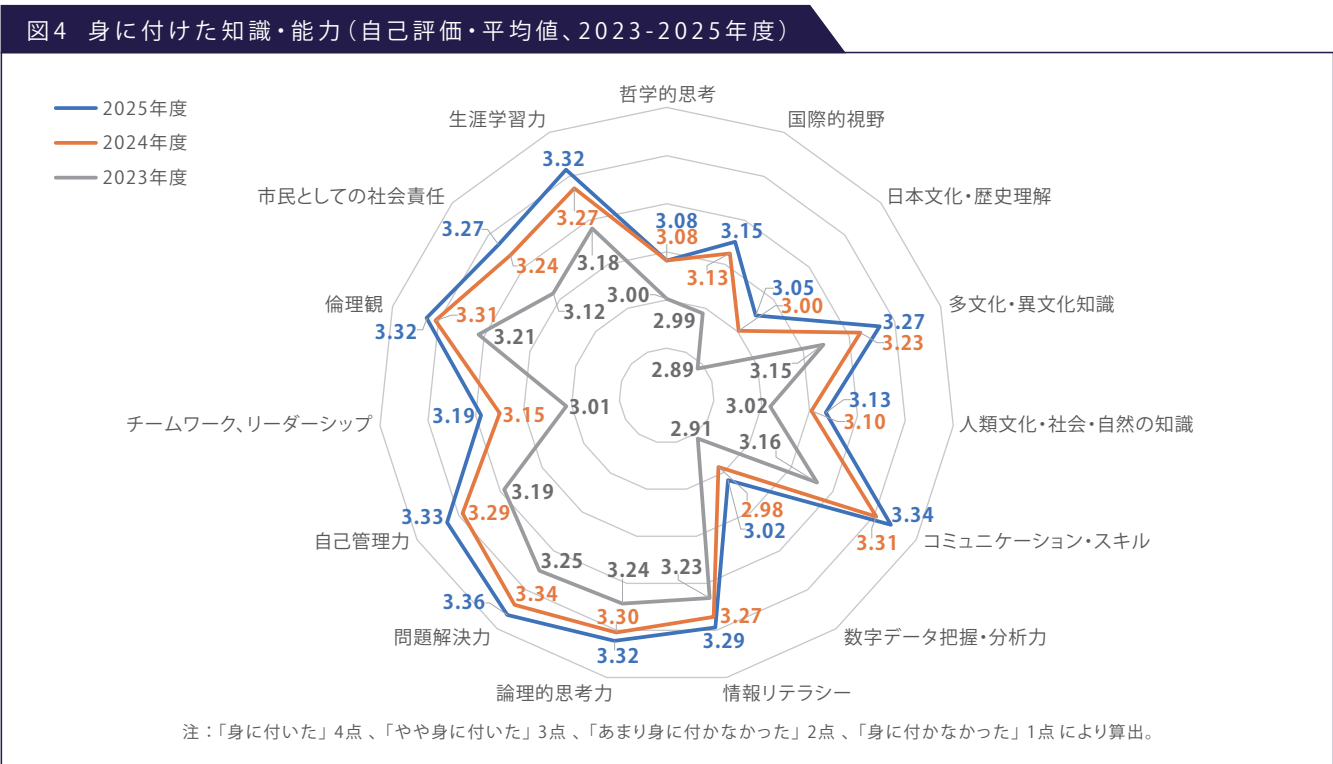


図4は、「設問 4年間を通じて、以下の項目を身に付けることができましたか。」の回答の平均値を示している。2025年度の各項目の平均値については、「哲学的思考」が昨年と同じである一方、他の項目では昨年よりも高くなっている。また、3年間を通じて、多くの項目で平均値が年々増加する傾向が見られる。

④「大学」「学部・学科」の満足度

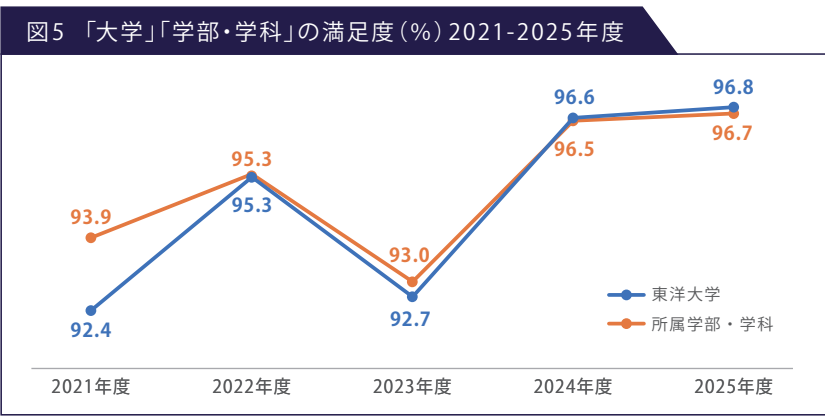


図5に示すように、2025年度の卒業生の「大学」および「学部・学科」の満足度(「満足している」+「やや満足している」)は、それぞれ96.8%、96.7%であり、いずれも昨年度より高い値となっている。コロナ禍の影響により2023年度はやや低下傾向にあったが、全体としては過去5年間にわたり高い満足度を維持している。

また、「大学」および「学部・学科」の満足度を4つの類型に分類して見ると(表1)、最も多いのは「①大学・学部・学科の両方に満足」の類型で、割合は95.1%に達している。一方、②「学部・学科に満足し、大学に不満」、③「大学に満足し、学部・学科に不満」、④「大学・学部・学科の両方に不満」の3つの類型は、それぞれ2%未満となっている。

表1 「大学」「学部・学科」の満足度に関する4類型(2025年度) (人数、[]内は全体のパーセンテージ)		大学満足度		合計
		「満足」「やや満足」	「不満」「やや不満」	
学部・学科満足度	「満足」「やや満足」	①両方に満足 3,167 [95.1%]	②学部・学科に満足、大学に不満 52 [1.6%]	3,219
	「不満」「やや不満」	③大学に満足、学部・学科に不満 58 [1.7%]	④両方に不満 53 [1.6%]	111
合計		3,225	105	3,330

⑤「大学」「学部・学科」の満足度に関連する要因

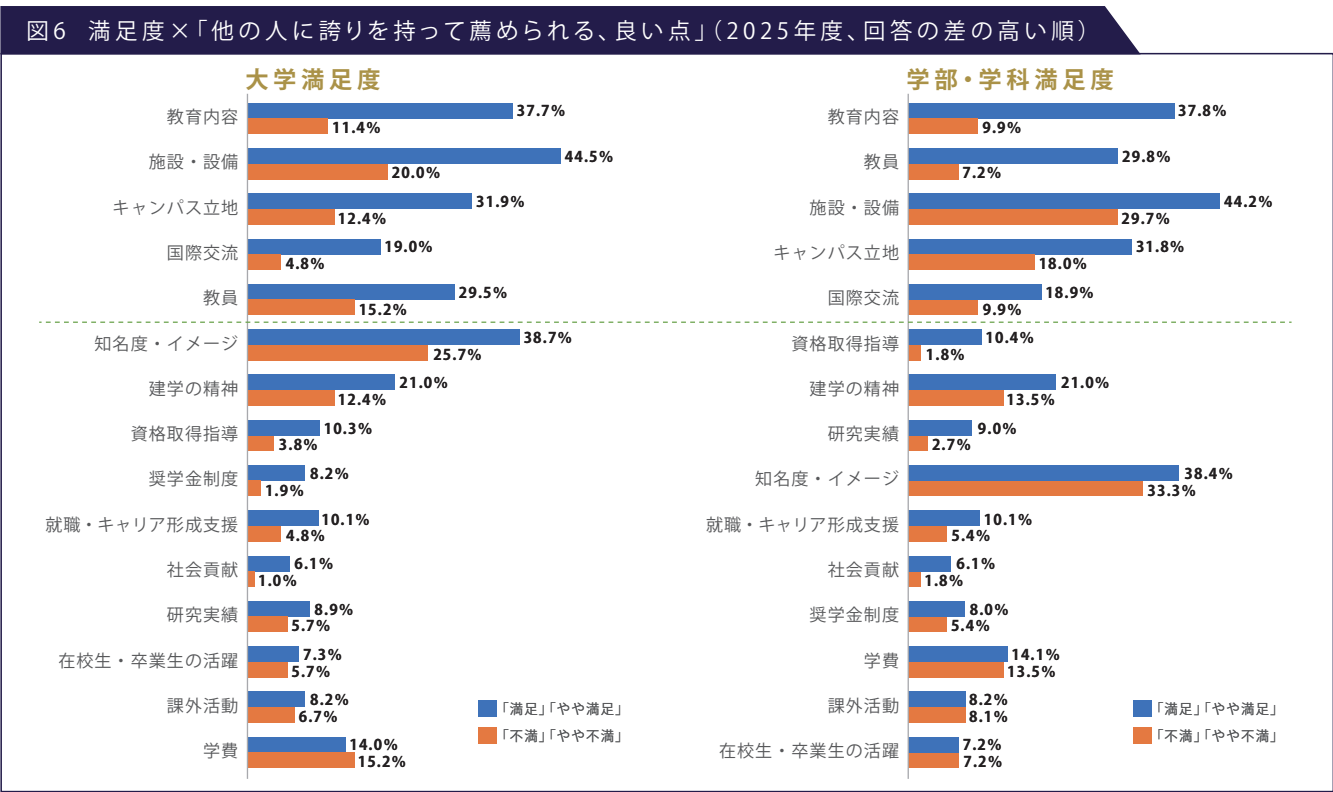


図6に示すように、まず、大学の満足度については、「(満足している)+(やや満足している)」と回答した者は、「(やや不満)+(満足していない)」と回答した者よりも、「誇りを持って薦められる良い点」として評価されているトップ5の項目は、「教育内容」「施設・設備」「キャンパス立地」「国際交流」「教員」である。一方、「学部・学科」に対する満足度の有無に関しても、同じ5項目が上位を占めており、その中で「教育内容」が第1位となっている。次いで、「教員」が第2位に位置し、その後に「施設・設備」「キャンパス立地」「国際交流」の順となっている。これらの結果は、これらの項目において一層改善すれば、「大学」および「学部・学科」の満足度がさらなる向上につながることを示唆している。

まとめ

教育に関しては、「コメントが付されて課題などの提出物が返却される」「授業内容に興味を持たせる工夫」「理解しやすい教え方」などの授業が増加している。これに伴い、これらの授業に対して「増やしてほしい」と感じる割合は減少しているが、他の授業と比較すると依然として高い傾向が見られる。学修時間については、昨年度と比較して、「予習・復習」や「自主学習」のいずれも、「5時間以下」の割合が微増している。一方、「卒論・卒研」にかかる時間には大きな変化はない。「身に付けた知識・能力」については、2025年度の各項目の平均値が昨年度より高くなっている。また、3年間を通じて、多くの項目で平均値が年々上昇する傾向が見られる。「大学」および「学部・学科」の満足度は、過去5年間にわたり高い水準を維持しており、両者に満足している学生の割合も圧倒的に高い。さらに、「教育内容」「施設・設備」「キャンパスの立地」「国際交流」「教員」などの学生からの評価が高まることで、「大学」および「学部・学科」の満足度向上に寄与していることが明らかになっている。

(学部別、第1部・第2部の単純集計、各設問への回答の経年変化のデータは「Googleドライブ/新ファイル管理/刊行物・統計データ関係/統計データ/学生アンケート/学生アンケート結果」で公表)。